

令和2年度 事業報告

新潟天使園

1. 経営基盤、運営管理の強化(施設の運営管理)

- ・措置費について学ぶ機会が多くあった。
補正予算や食費についての適正化等措置費の特に事業費の収入と支出の仕組みについて学んだ。また私立高校進学等、措置費の事業費に関する情報が不足していることに気づいた。研修等、職員全体で情報収集に当たる工夫が必要である。

2. 組織体制の整備、職員の育成マネジメントと定着(職員の確保と養成)

(1)職員の業務に関する質の向上

- ・職員がそれぞれ立場と役割の理解が進んできている。また、組織としてのチーム養育も確立しつつある。特に問題発生時にチームで共有、検討という流れが全職員で意識できるようになってきた。
今後は、さらに各職員のレベルアップにつながるOJTの取り組みが今後の課題。

(2)研修計画の整備と確立

- ・コロナ禍なので園内研修での学びの機会を会議に設けるなど、例年より充実させた。
また園外の研修においてもオンライン研修があり、受講する機会があった。

3. 支援内容の充実(支援体制の整備と充実)

(1)施設運営や入所している子どもたちの生活環境づくりについての取り組み

- ・生活環境を整えながら個人に適した養育を考え、子ども本人と一緒に生活のし方を考えることができた。特に高学年令児童の支援については今ある環境スペースを積極的に活用できた

(2)子どもへの支援の充実

- ・コロナ対策を取り組んでいく中で高年齢児の自立訓練室の活用などの意識付けを実施した。また多目的ユニットを用いて、問題行動を行った子どもの一時保護後の生活の場として組み、立て直しを行った。

4. 施設整備と地域社会への公益的取り組みの推進(敷地や建物の管理と地域との連携)

(1)安全な住環境としての整備に取り組む

- ・敷地内の整備、特に駐車場の整備や除雪対策等職員子ども一体で取り組んだ。
- ・子どもの無断外出や不審者対策時などに防犯カメラを活用した。

(2)地域や関係機関との連携を図り、児童養護施設としての役割や機能について取り組む

- ・関係機関との連携を必要に応じて積極的に行ってきた。地域の子育て支援や里親支援については取り組み始めたばかりであり、今後も年間の計画を立て、継続して取り組んでいく必要がある。

(3)地域貢献を目的とし、地域と交流する機会を設定し取り組む。

- ・コロナ対策のため、進捗なし。今後も継続して取り組む。

(4)社会福祉充実計画に基づき、地域や子どもの福祉に関連する支援に取り組む

- ・入所児童の余暇活動について実施した。
- ・利用回数は少ないが関係機関の会議や研修の場として活用した。
- ・コミッテの活用方法についてはさらに具体化していくことが今度の課題。

5. 施設運営の総点検(社会福祉・児童福祉の動向)

- ・継続して実施した。